

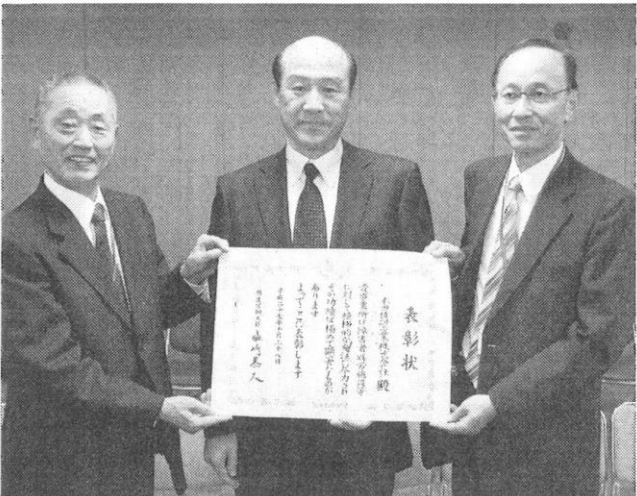
# 知的障害者就労支え40年超

## ホンダ、厚労大臣表彰

### 積極的発注 第1回受賞に10社

障害者就労施設の製品や業務に積極的な発注を行った企業を厚生労働大臣表彰する制度が創設され、ホンダなど第1回受賞企業10社の表彰式が28日、行われた。ホンダは1974年、創業者本田宗一郎氏の鶴の一声で、平塚市の社会福祉法人「進和学園」(出縄雅之理事長)に部品組み立て加工を発注、40年以上にわたり知的障害者の福祉的就労を支えてきた。ホンダの松井直人購買本部長は「障害者福祉のため、さらに取り組みを広げたい」と話した。

表彰制度は、低水準にとるため、企業による発注を促す狙い。障害者優先の賃金、工賃を引き上げ 調達推進法(2013年度



厚労大臣表彰の第1回受賞企業になったホンダの松井直人購買本部長(中央)と進和学園の出縄雅之理事長(左)

(熊谷 和夫)

施行)を受けた。ホンダは14年度、進和学園の営業窓口会社「研進」を通して、進和学園に1億477万円(作業会計収入)、社会福祉法人「小田原支援センター」(小田原市)に666万円(同)の自動車部品の組み立て加工を発注しており、10社の中で唯一、1億円を突破した。発注は、ホンダの元社員だった進和学園初代理事長の兄が、本田氏に相談したのがきっかけ。知的障害者授産施設の仕事がなかなか見つからないという訴えに心を動かされた本田氏が業務の発注を決断。プロジェクトチームを半年にわたって進和学園に派遣し、工場

体制の整備、障害者の指導を行った。障害者にはホンダの作業服が贈られ、障害者の誇りにもなった。生産拠点の海外シフトで、発注額は最盛期の半分に落ち込んでいるが、現在もステップワゴン、軽スポーツ車S660の部品加工組み立てなどが進和学園に発注されている。「不良率はほとんどゼロ。思いを込めて作っていただいている。ありがたい関係です」と松井本部長。

進和学園で作業を担当しているのは障害者就労支援事業所「しんわルネッサン」(就労継続支援A型20人、B型8人、就労移行移行支援20人)。14年度はA型(雇用型)の平均月額賃金が全国平均の2倍以上の15万3062円、B型(非雇用型)の工賃は同3倍以上の4万6799円だった。ホンダの仕事を行うことで全国トップレベルの賃金、工賃を維持している。表彰式に出席した出縄理事長は「障害者福祉が社会に認知されていない時代からお世話になってきた。ホンダさんには言葉に表せないほど感謝している。今回の表彰は、ようやく表彰制度が追い付いた」と話した。

表彰企業はほかに、花王・和歌山工場(和歌山県)、JR九州エコホス(福岡県)、メティエス東基(栃木県)など。